

鳳 陽

第163号
平成30年5月15日

発行所 一般社団法人 鳳 陽 会
(山口大学経済学部同窓会)
〒753-0089 山口市亀山町3-1
TEL・FAX (083) 924-4361
E-mail : houyou99@crocus.ocn.ne.jp
印刷所 株式会社マルニ

—— 開学の祖「上田鳳陽」先生 (1769～1853) の教えを汲み ——



国宝 瑠璃光寺五重塔

歓迎!! 第88回通常総会
おいでませ山口へ!

行事予定
○平成30年6月15日(金)
理事長杯ゴルフ大会(ご案内は2ページ)
○平成30年6月16日(土)
第88回通常総会(ご案内は2ページ)
於 山口市 山口グランドホテル

全国の鳳陽会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、今年の第88回通常総会は来る6月16日(土)に、6年振りに山口の地で開催されます。今回本部では、通常総会に先立って、全国支部長会議も予定されておりますので、今までも増して全国各地から、各支部長さんを始めとする多くの会員の皆様にご参加頂きますよう、ご案内申し上げます。

本年は明治維新から150年であり、吉田松陰や木戸孝允、高杉晋作、大村益次郎ほか数多の人材を輩出した山口県では、維新胎動の地「山口県」として、県内各地で様々な記念事業が実施されています。「やまぐち幕末ISHIN祭」と銘打った観光キャンペーンでは、関連の高速道路が定額で乗り放題となるパスもクリスマススイブまで利用可能となっております。山口のお薦めまち歩きコースとして、瑠璃光寺五重の塔から沈流亭、鶯張り石畳、洞春寺、旧山口藩庁門へのルートも紹介されており、是非この機会に山口にお越しいただきたいものです。なお、県主催の関連事業でゆめ花博も予定されています。会員の皆様が、亀山の麓で、ある

いは平川・吉田の地で、勉学に、スポーツに、サークル活動に、アルバイトに勤しみ、あるいは学生運動に、はたまた恋愛に、多感な青春時代を過ごされた、思い出の地「山口」にご参集されますことを心から願っております。

各支部でまとまって、あるいは同期会、ゼミ、サークル仲間、寮や下宿の仲間、卒業後の職場の集まり等々、沢山のつながりをお持ちの皆様が、世代を超えて、当日、一堂に会してみませんか? また、今回は総会の会場と、大学・旧市街との距離が少しありますが、ご家族お揃いで、あるいは会員同士で、ごゆっくりと一泊されての懐かしい山口の市内散策など、ご計画されてみてはいかがでしょうか。引受け支部としては、一人でも多くの皆様にお集り頂きますよう願っております。

おいでませ山口へ!



山口支部長
久芳 博安 (学19)

学園だより

新任のご挨拶

経済学部長

兵藤

隆



このたび第26代学部長に就任いたしました。兵藤隆と申します。就任にあたり、これまでの人生の中で「山口大学経済学部」という文字をいったい何回書いてきたのだろうと考えていました。1985年に湯田温泉駅へ降り立ち、山口大学までの道をただひたすらまっすぐに歩きながら、これからの四年間、ここで学びそして社会へと巣立っていくんだという不思議な感覚は、いまでもしっかりと記憶に残っています。そのときから、自動車学校の申込書、履歴書、学割など様々な書類にその文字を書き、その後、50歳を越えてもなお「山口大学経済学部」と書き続けることができる人生になると、19歳の私は考えても

いませんでした。1989年1月、卒業論文を作成している途中で、昭和が平成に変わり、1994年4月に講師として赴任いたしました。翌1995年に創立九十周年記念事業をやるんだと早々に委員を任せられ、大学1年生のときに、そういえば八十周年だったよななどと思い出しながら、2005年の創立百周年記念事業では助教として実行副委員長を務めました。今、自分の人生と山口大学の歴史を振り返るとき、「山口大学経済学部」という文字のもつ意味を改めて重く受け止めています。

私の願いは「山口県の国立大学にある経済学部」から脱却し「山口大学経済学部」という唯一無二の存在を受験生・保護者をはじめ、できるだけ多くの人に認知してもらおうことです。幸い、当学部には最高のスタッフと優秀で素直な学生が在籍し、日々切磋琢磨しながら諸先輩方から受け継いだ伝統を背に実績を一つずつ積み重ねていますので、それらをしつかりアピールしていきます。

ただし、時代の波はどんなときも大きく、そして激しく押し寄せてきます。学部再編、大学院改革、入試制度改革、18歳人口の減少、その他新聞を読むまでもなく常に我々は改革を迫られている状態です。立ち止まれば流される、安易に考えなくても流される、その波に押し流されることなく、凜としてそびえ立つためには不断の改革と努力が必要であるということ。歴代の学部長および歴史が語ってくれます。

みなさんはお気づきでしょうか。「山口大学」というのは最も画数の少ない国立大学（おそらく次は大分大学）です。字のごとく発想をシンプルにして、学生のためを第一義とし母校「山口大学経済学部」のため職務を遂行する所存です。

今後も引き続き、鳳陽会のみなさまにはより一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

昭和40年、大分県中津市生まれ、山口大学経済学部卒（大学37期）、山口大学大学院経済学研究所修了（修士）、神戸大学大学院経済学研究所後期博士課程単位取得退学、金融論専攻

「一般社団法人 鳳陽会」 第88回 通常総会

第88回(平成30年度)通常総会を下記のとおり開催します。
お手数ですが、同封のハガキ(黄色または白色)にて出欠を**6月4日(月)までに必着**でご返送下さい。
黄色のハガキが届いた方で欠席される場合は、「委任状」のご記入もお願いします。

記

日時：平成30年6月16日(土) 16:00～
 理事会 13:00～13:45
 全国支部長会議 14:00～15:30
 通常総会 16:00～17:00
 懇親会 17:30～19:30

場所：山口グランドホテル(山口市小郡黄金町1-1、新山口駅新幹線口前)

会費：一万円

議題：【決議事項】(詳細は6～7ページ)
 第1号議案 平成29年度決算報告
 第2号議案 役員を選任
 【報告事項】(詳細は7～9ページ)
 平成29年度事業報告、公益目的支出計画実施報告
 平成30年度事業計画及び収支予算報告



■ JR新山口駅前(新幹線口より徒歩1分)
 ■ 宇部空港より車で25分、直通バスで30分
 ※当日は、クールビズでご出席ください。
 ※平成31年度通常総会は福岡市にて開催予定

「鳳陽」の配布について

会 員	1年間の配布回数	会 費
年会費会員	3回(5月・9月・1月)	3,000円/年
賛助会員(終身)	3回(//)	50,000円
贈 呈 者	大学関係者および在学生 新卒業生には卒業後3年間	
上記以外の会員には 年1回、5月号のみ を送付しています。		

理事長杯 ゴルフ大会

日時 6月15日(金) 9時30分スタート
 場所 宇部72カントリークラブ 万年池西コース
 参加費 3,000円(プレー費各自負担)
 申込 6月1日までに山口支部(学31 新谷)へ
 FAX 0836-65-4850
 携 帯 090-8602-3417

山口大学から証明書発行手数料有料化のお知らせ

山口大学では、卒業証明書及び成績証明書などの証明書については無料で発行してまいりましたが、平成30年4月1日の請求分から、卒業生及び修了生等に係る証明書発行手数料を有料にさせていただきます。

卒業生及び修了生等の皆様には、ご負担をおかけすることになりますが、何卒、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

※ お支払い方法及び請求手続きなどの詳細は、山口大学ホームページでご確認ください。なお、対象者及び発行手数料は次のとおりです。

■ 対象者

卒業生、修了生、退学者及び除籍者（卒業、修了、退学又は除籍の日の属する月内に申請する場合を除く。）が対象です。また、科目等履修生及び研究生等の非正規生も対象です。

■ 発行手数料（1通につき）

和文（日本語）証明書：300円
英文：500円

【本件に係るお問い合わせ先】

山口大学学生支援部教育支援課
TEL：083-933-5150 / E-mail：ga115@yamaguchi-u.ac.jp

祝 御卒業・御入学 （経済学部からのデータに拠る）

平成29年度卒業生数

【学部】

学科・課程	卒業生数
経済学科	85名(16)
経営学科	130名(47)
国際経済学科	52名(21)
経済法学科	51名(19)
観光政策学科	31名(19)
商業教員養成課程	12名(5)
合計	361名(127)

※平成29年9月卒業生14名を含む
※()は、女子で内数

【大学院 経済学研究科】

学科・課程	修了生数
経済学	12名(3) [12]
企業経営	3名(2) [3]
合計	15名(5) [15]

※平成29年9月修了生9名を含む
※()は、女子で内数
※[]は、留学生で内数

卒業生就職状況 (業種別)

業種	就職件数
農業・林業・漁業	2名(0)
鉱業・採石業・砂利採取業	1名(0)
建設業	20名(10)
製造業	38名(11)
電気・ガス・熱供給・水道業	1名(0)
情報通信	22名(10)
運輸・郵便	15名(4)
卸売・小売	53名(21)
金融・保険	71名(25)
不動産・物品賃貸	8名(2)
サービス	32名(16)
公務員	39名(13)
医療・福祉	1名(1)
教育・学習支援	12名(4)
その他	1名(0)
計	316名(117)

※平成30年3月30日現在

学 部 短 信

次のとおり先生の異動をお知らせします。
(敬称略)

新任(平成30年4月)

谷田 充明 経営学科 特命教授
(兼 大原簿記学校東京校 会計士講座本部 教務部 部長)

河野 箏子 経済学科 特命講師
(京都女子大学 法学部)

平澤 哲 経営学科 特命教授

平良 小百合 経営学科 講師

八代 拓 経済学科 講師
(前 株野村総合研究所 コンサルティング事業本部 研究員)

米岡 秀眞 経済学科 講師
(前 三重県地域連携部 情報システム課 主幹)

西尾 建 観光政策学科 准教授
(前 Waiako University, Institute for Business Research)

児玉 州平 経営学科 准教授
(前 九州産業大学 経済学部 講師)

卒業生進路状況

進路状況	就職件数
就職者	316名(117)
進学者	6名(1)
その他	39名(9)
合計	361名(127)

※平成30年3月30日現在
※平成29年9月卒業生14名を含む
※()は、女子で内数

平成30年度入学者数

	経済学部
男	231名
女	118名
合計	349名

※留学生2名(男女各1名)を含む

HITACHI
Inspire the Next

あなたの会社の物流に、知能を。

IoTや人工知能、ロボットなど、最先端の情報技術と物流技術を活用して、最適な物流システムをお客様に提供する。日立物流は、スマートロジスティクスで、物流の新しいあり方を生み出しています。

ビジネスを未来へ運ぶ、 SMART LOGISTICS

株式会社日立物流 www.hitachi-transportssystem.com
名誉相談役 山本 博巳(学10期)



支部だより

佐賀支部

支部総会を開催

平成29年11月24日(金)、佐賀市駅前の「グランデ」はがくれに於いて平成29年度支部総会を開催いたしました。



古藤新支部長(学19)のもと、久し振りに2ケタ(10名)の参加者が集い、和やかで賑やかな支部総会となりました。

まず、古藤支部長に挨拶をいただき、平成28年度会計報告および会員の近況(お便り)報告を行った後、古川先輩(学8)の乾杯の音頭により懇親会をスタートしました。しばらくは、それぞれ食事と会話を楽しみ、お一人一人の近況や学生時代の思い出などを披露してもらったからは、お互い席を移動しながら交流を楽しみました。

近年若い人の参加が少なく苦慮していますが、先輩・後輩相交わつての交流は、青春時代同じ大学・学部・土地で暮らした者同士気持ち通じ合い楽しいものがあります。是非多くの方々の参加を期待しています。

ご 寄 贈 (敬称略)

左記のとおり鳳陽会へご寄贈戴きました。ありがとうございます。

1. 図書

- 一、安部「成先生ご夫婦追悼集」追昔の影長くして 綾塚 幸徳(学7)
- 一、「経営者のための人手不足解消戦略」 大和一雄(学7)

2. その他

- 一、寄付一万五千元

NK生(学32)

【出席者】

- 古藤俊隆(支部長・学19)、古川 雅康(学8)、永原醇英(学10)、橋口健(学11)、石井誠三郎(学16)、上野啓(学19)、古賀弘泰(学19)、福山正廣(学21)、古川忠幸(学24)、小宮和広(幹事・学21) (小宮 記)

熊本支部

支部総会を開催

平成29年12月2日、例年通り名勝水前寺公園近くの割烹「羅生門」にて15名の会員出席のもと支部総会を開催致しました。

総会では支部長から、熊本地震後の各会員の変わりがない様子に安心している旨の挨拶があり、鳳陽会本部の活動状況、各支部に対するアンケート結果のあらまし、また、本部と連携して会員名簿の整理充実を図り参加会員の増に結びつけたい旨の話がありました。その後、幹事より厳しい現況のなか節約に努めた結果の直近の会計報告を行い終了しました。

懇親会は柴田先輩(学7)の乾杯の音頭で始まりました。近況報告では、地震後1年8ヶ月が経ち、ご近所、知人に支えられて再スタートが出来つつある話や、健康面で



(学17 片山 記)

の諸数値が大幅に改善し元氣を取り戻した先輩の話もあり、大いに盛り上がりました。最後に「山都追遙歌」「鳳陽寮寮歌」を皆で合唱。会員の更なる発展と次回での再会を期しての田代先輩(学11)の締めで予定時間を大きくオーバーして終了しました。

【参加者】(敬称略)

- 柴田晃(学7)、田代照雄(学11)、原口秀久(学11)、竹村恵(学13)、定石公也(学14)、高田亜夫(学15)、岡山韶祐(学16)、片山謙(学17)、谷川純一(学21)、前田春幸(学24)、松永賢二(学24)、福井正明(学25)、岡畑良平(学36)、外山啓太(学43)、上田健太郎(学54)

資産運用のご相談は...

岡三証券 宇部支店

宇部市相生町9-7

電話:0836-31-1171

商号等:岡三証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号
加入協会:日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会



学校経営を支援する
多彩なソリューションを
ご提供します。

印刷、IT、映像、イベント、人材等の幅広い事業リソースを活かし、
学校案内や広報誌の制作をはじめ、HPや映像制作、eラーニング、
学生のキャリア教育・就職支援、同窓会事務局の運営支援等、
円滑な学校経営をサポートします。

まずはお気軽にお問い合わせください

株式会社廣濟堂 教育ソリューション

〒560-8567 大阪府豊中市堂池西町2-2-1
TEL 06-6855-9241
http://www.kosaido.co.jp/



平成30年度 支部総会 開催予定

下記のとおり支部総会・懇親会の開催が予定されています。奮ってご参加ください。

参加ご希望の方で、支部からご案内が届かない場合は、ご遠慮なく本部へご連絡ください。

(TEL・FAX 083-924-4361 E-mail houyou99@crocus.ocn.ne.jp)

東北支部	日時：平成30年7月7日(土)または7月14日(土) 場所：天繁(仙台市)	防府支部	日時：平成30年7月27日(金)18:30～ 場所：割烹松月(JR防府駅てんじんぐち)
東京支部	日時：平成30年6月2日(土) 正午～ 場所：日立金属 和彊館(東京都港区高輪4-10-56) テーマ：「維新150年！長州での絆を今一度！」 支部事務局：TEL/FAX 03-6435-0523 Email houyoukai-tokyo@bc.wakwak.com	山口支部	日時：平成30年5月16日(水) 18:30～ 場所：防長苑(山口市湯田温泉)
		宇部支部	日時：平成30年7月6日(金) 18:30～ 場所：ANAクラウンプラザホテル宇部
名古屋支部	日時：平成30年5月26日(土) 12:00～15:00 場所：三菱UFJ銀行主税町クラブ (名古屋市東区主税町3-1)	香川支部	日時：平成30年5月19日(土) 11:00～14:00 場所：料亭ニ蝶(高松市百間町7-7) TEL 087-851-7166
京滋支部	日時：平成30年11月10日(土) 11:00～13:30 場所：新・都ホテル(京都駅八条口)	愛媛支部	日時：平成30年11月中旬 場所：いよてつ会館(松山市)
大阪支部	日時：平成30年5月27日(日) 12:00～ 場所：ホテルグランヴィア大阪 連絡先：事務局長 伊藤 節(学29) TEL 0797-75-2342 FAX 0797-80-3610 Email tipaf1528@nifty.com	北九州支部	日時：平成30年6月27日(水) 18:30～ 場所：ステーションホテル小倉
		福岡支部	日時：平成30年12月12日(水)18:30～ 場所：西鉄グランドホテル
神戸支部	日時：平成30年12月1日(土) 12:30～ 場所：梅の花 元町店(神戸市三の宮) 連絡先：上田 功(学21) TEL 090-3098-8716 Email tora-tora-ueda@sirius.ocn.ne.jp	長崎支部	日時：平成30年10月下旬～11月上旬に開催予定
		宮崎支部	日時：平成30年9月15日(土)18:00～ 場所：ホテルマリックス(宮崎市千草町15-8)
尾道支部	日時：平成30年9月15日(土) 15:50～ 場所：グリーンホテル尾道(JR尾道駅前)	下記の支部は、今年度開催済みです(例年同時期に開催されます)。	
鳥取支部	日時：平成30年11月に開催予定	米子支部	日時：平成30年4月14日(土) 12:30～ 場所：ANAクラウンプラザホテル米子
		下松・光支部	日時：平成30年4月21日(土) 12:00～ 場所：和食処はらだ(下松市東柳2-4-6)

井澤金属は、金属の未来を見つめています。

【取扱品目】
 非鉄金属素材／アルミ・伸銅製品
 特殊合金／銅合金／精密鋳・鍛造品
 クラッド／FRP／超硬・研削工具
 粉末合金製品／電装パーツ
 電子部品／金型
 エレクトロニクス関連製品
 工作機械／環境改善製品／建築材料

井澤金属は、あらゆる産業分野に
 役立つ金属素材を提供する
 非鉄金属の総合技術商社です。



金属の未来を、
日本の未来に。

井澤金属株式会社
 取締役会長 井澤 武尚 (学12)

本社 〒542-0081 大阪市中央区南船場1丁目13番10号
 TEL (06) 6262-1231 FAX (06) 6262-1233
 東京支店 名古屋支店 広島営業所 神戸営業所
 URL : <http://www.izawa-metal.co.jp>

ご婚礼予約受付中！
 お料理も！挙式も！ドレス試着も！すべてが見学できるプレミアムフェア♪

BIG BRIDAL 7/22 [SUN]
 ビッグブライダルフェア **FAIR**

忘年会、歓送迎会、同窓会など
 宴会、会議のご予約も承っております

新幹線新山口駅から徒歩1分

山ノグランドホテル

〒754-0021 山口県山口市小郡黄金町1-1
 TEL 083-972-7777 婚礼フリーダイヤル 0120-7-11874

第88回 通常総会の決議事項及び報告事項

決議事項

Ⅱ 貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:円)

第1号議案 平成29年度決算報告

Ⅰ 正味財産増減計算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	3,959,678	3,630,078	329,600
受取入会金	6,760,000	7,240,000	△ 480,000
受取会費	3,331,000	3,129,000	202,000
受取寄付金	23,402	203,680	△ 180,278
受取広告料	485,000	545,000	△ 60,000
受取利息	46,053	4,064	41,989
雑収入	134,450	20,922	113,528
経常収益計	14,739,583	14,772,744	△ 33,161
(2) 経常費用			
① 事業費	11,140,696	11,407,539	△ 266,843
給料手当	3,273,524	3,403,238	△ 129,714
福利厚生費	490,527	469,351	21,176
教育援助費	1,513,344	1,671,652	△ 158,308
情報交流費	910,678	1,109,330	△ 198,652
減価償却費	520,523	520,523	0
通信運搬費	1,433,250	1,469,208	△ 35,958
消耗品費	54,421	39,297	15,124
「鳳陽」刊行費	1,858,756	1,763,812	94,944
同窓会事業費	900,484	793,922	106,562
光熱水料費	185,189	167,206	17,983
② 管理費	4,765,441	4,850,034	△ 84,593
給料手当	1,407,716	1,539,370	△ 131,654
福利厚生費	210,225	201,152	9,073
会議費	167,789	160,397	7,392
旅費交通費	780,559	624,824	155,735
通信運搬費	363,985	360,515	3,470
減価償却費	223,081	223,081	0
消耗品費	52,438	41,549	10,889
消耗品什器備品費	95,860	74,454	21,406
修繕費	0	0	0
光熱水料費	79,367	71,660	7,707
賃借料	640,900	680,763	△ 39,863
租税公課	272,600	272,600	0
雑費	470,921	599,669	△ 128,748
経常費用計	15,906,137	16,257,573	△ 351,436
当期経常増減額	△ 1,166,554	△ 1,484,829	318,275
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
退職給付引当金戻入	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,166,554	△ 1,484,829	318,275
一般正味財産期首残高	61,868,550	63,353,379	△ 1,484,829
一般正味財産期末残高	60,701,996	61,868,550	△ 1,166,554
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減高	0	0	0
指定正味財産期首残高	120,300,000	120,300,000	0
指定正味財産期末残高	120,300,000	120,300,000	0
III 正味財産期末残高	181,001,996	182,168,550	△ 1,166,554

注) 上記正味財産増減計算書は、平成20年会計基準で作成

- 1 -

科 目	当年度末	前年度末	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	16,808,069	17,082,120	△ 274,051
流動資産合計	16,808,069	17,082,120	△ 274,051
2 固定資産			
(1) 特定資産			
前受入会金引当資産	30,860,000	31,120,000	△ 260,000
記念基金引当資産	117,500,000	117,500,000	0
建設基金引当資産	1,800,000	1,800,000	0
教育研究積立金引当資産	2,000,000	2,000,000	0
減価償却引当資産	37,195,506	36,451,902	743,604
特定資産合計	189,355,506	188,871,902	483,604
(2) その他の固定資産			
建物	8,551,583	9,220,514	△ 668,931
建物付属設備	86,200	124,700	△ 38,500
構築物	234,697	251,329	△ 16,632
什器備品	542,102	561,643	△ 19,541
出資金	30,000	30,000	0
投資有価証券	2,610,944	3,337,598	△ 726,654
その他の固定資産合計	12,055,526	13,525,784	△ 1,470,258
固定資産計	201,411,032	202,397,686	△ 986,654
資産合計	218,219,101	219,479,806	△ 1,260,705
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	0	9,720	△ 9,720
未払金	177,105	81,536	95,569
前受金	6,180,000	6,100,000	80,000
流動負債合計	6,357,105	6,191,256	165,849
2 固定負債			
前受入会金	30,860,000	31,120,000	△ 260,000
退職給付引当金	0	0	0
固定負債合計	30,860,000	31,120,000	△ 260,000
負債合計	37,217,105	37,311,256	△ 94,151
III 正味財産の部			
1 指定正味財産	120,300,000	120,300,000	0
(うち特定資産への充当額)	120,300,000	120,300,000	0
2 一般正味財産	60,701,996	61,868,550	△ 1,166,554
(うち特定資産への充当額)	38,195,506	37,451,902	743,604
正味財産合計	181,001,996	182,168,550	△ 1,166,554
負債及び正味財産合計	218,219,101	219,479,806	△ 1,260,705

注) 上記貸借対照表は、平成20年会計基準で作成

Ⅲ 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

- 有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）によっている。
- 固定資産の減価償却の方法
法人税法に規定する旧定額法及び定額法によっている。
- リース取引の処理方法
通常の賃貸借取引に係る方法によっている。

2 会計方針の変更

財務諸表の様式等、新公益法人会計基準（平成20年基準）に準拠している。

3 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
前受入会金引当資産	31,120,000	6,500,000	6,760,000	30,860,000
記念基金引当資産	117,500,000	0	0	117,500,000
建設基金引当資産	1,800,000	0	0	1,800,000
教育研究積立金引当資産	2,000,000	0	0	2,000,000
減価償却引当資産	36,451,902	743,604	0	37,195,506
合 計	188,871,902	7,243,604	6,760,000	189,355,506

- 2 -

- 4 特定資産の財源等の内訳
特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
前受入金引当資産	30,860,000	0	0	30,860,000
記念基金引当資産	117,500,000	117,500,000	0	0
建設基金引当資産	1,800,000	1,800,000	0	0
教育研究積立金引当資産	2,000,000	1,000,000	1,000,000	0
減価償却引当資産	37,195,506	0	37,195,506	0
合 計	189,355,506	120,300,000	38,195,506	30,860,000

- 5 担保に供している資産
担保に供している資産はない。
- 6 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

項 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	37,162,833	28,611,250	8,551,583
建物付属設備	500,000	413,800	86,200
構 築 物	1,868,000	1,633,303	234,697
什 器 備 品	7,079,255	6,537,153	542,102
合 計	46,610,088	37,195,506	9,414,582

- 7 保証債務等の偶発債務
保証債務等の偶発債務はない。
 - 8 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。
- | 科 目 | 帳簿価額 | 時 価 | 評価損益 |
|----------------|-------------|------------|---------|
| オランダ水道整備金融公庫 | 50,000,000 | ***** | ***** |
| コミュニケーションイスト I | 24,686,450 | ***** | ***** |
| 大阪府公募公債 | 50,000,000 | ***** | ***** |
| | 10,000,000 | 10,175,000 | 175,000 |
| 合 計 | 134,686,450 | ***** | ***** |
- 9 関連当事者との取引の内容
関連当事者との取引はない。
 - 10 重要な後発事象
重要な後発事象はない。

IV 監査報告書

私たち監事は、平成30年4月18日に鳳陽会事務局において、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの平成29年度における一般社団法人鳳陽会の業務及び財産の状況並びに公益目的支出計画の実施状況について、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号）の第99条、124条及び一般社団法人鳳陽会の定款第23条に基づき監査を行いましたので、その結果について、次のとおり報告します。

- 1 事業報告は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 2 計算書類は、会計帳簿又はこれに関する資料の記載金額と一致し、当法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- 3 公益目的支出計画実施報告書は、事業報告、計算書類の記載内容と一致し、法令及び定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示していると認めます。
- 4 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

平成30年 4月18日

監事 西田 正人

監事 森 敏明



第2号議案 役員の選任

理事 候補者（敬称略）

氏 名	卒期	支 部	備 考	氏 名	卒期	支 部	備 考
吉岡博美	学18	東 京	重任	久芳博安	学19	山 口	重任
高木 寛	学19	東 京	重任	石島克幸	学26	山 口	重任
松永昭博	学21	東 京	重任	爲近美由紀	学24	宇 部	重任
羽根 彰	学29	大 阪	重任	日高義隆	学21	北九州	重任
山下秀雄	学26	広 島	新任	鬼木和夫	学17	福 岡	重任

監事 候補者（敬称略）

氏 名	卒期	支 部	備 考	氏 名	卒期	支 部	備 考
西田正人	学20	宇 部	重任	森 敏明	学23	山 口	重任

報告事項

I 平成29年度事業報告

1 教育支援事業（母校、地域、在学生への支援）

- (1) 経済学部との連携による、学生の就職活動に対する支援の推進
 - ① 就職アドバイザー4人による学生の就職相談への対応
毎週、月・火・木・金曜日の14:30～16:30 実施（経済学部就職相談室）
 - ② 模擬面接の実施（10月18日～12月6日の間の水曜日に6回実施、参加企業：6社）
企業等の人事担当者、就職アドバイザーが面接官になり、学生を対象とした集団模擬面接を実施
- (2) 経済学部職業会計人コースに対する支援及び助成
 - ① 全国大学対抗簿記大会への助成
 - ② 公認会計士試験、税理士試験合格者の表彰、副賞助成
 - ③ 経済学部職業会計人コース奨学金造成に対する助成
- (3) グローバル人材育成に対する助成
 - ① 英会話集中講義に対する助成（8月1・2日（A日程）、8月3・4日（B日程））
経済学部及び他学部の学生等を対象に、外部（プール学院大学）の外人講師を招聘して実施
- (4) 公益財団法人山口大学後援財団に対する支援
日中學術交流活動に対する寄附
- (5) 経済学部の学科別成績優秀者及びTOEIC成績優秀者の表彰、副賞助成

2 交流事業

- (1) 山口大学同窓会（各学部同窓会の連合同窓会）を支援し、他学部同窓会との交流を促進
山口大学ホームカミングデーへの積極的参加等
- (2) 卒業時、卒業生（新会員）に「鳳陽会」の紹介冊子「花なき山の…」及び記念品（シャープペンシル）を配付するとともに、住所の連絡、支部活動への参加、会費の納入を依頼
- (3) 会員と学生との積極的交流
 - ① 学生ゼミ連主催の「卒業祝賀会」への会員（役員、山口支部会員等）の積極的な出席
 - ② 山口支部総会への山口大学留学生の招待等
- (4) 新入生の保護者を対象とした「保護者懇談会」において、「鳳陽会」の沿革、活動内容を紹介し、同窓会活動に対する理解を求めた。
- (5) 中央寮歌祭（東京支部）、岡山寮歌祭（岡山支部）への参加に対する支援

3 同窓会関係事業

- (1) 第87回通常総会（全国総会）を開催し、会員相互の交流を促進した。

- ・ 日 時 平成29年6月17日(土) 16:00～19:00
 - ・ 場 所 〒530-0001 大阪市北区梅田三丁目1番1号
ホテルグランヴィア大阪
 - ・ 出席者 約200名(経済学部の招待学生：3名)
- (2) 各支部総会への積極的参加
名古屋支部、京滋支部等14支部に出席
- (3) 会員の動静管理や鳳陽会関係資料の充実
各支部との連携の下、会員の動静把握・整理や各支部・会員へのデータ提供を行うとともに、鳳陽会関係資料の充実に努めた。

成の実績がなかったこと、講演会、シンポジウム等の開催実績がなく、見込んでいた経費が必要なくなったため、実績額が計画額を下回った。

□ 公益目的支出計画の状況

- 1 公益目的支出計画の完了事業年度の末日(計画上の完了見込み)
平成65年3月31日

2 公益目的財産の状況 (単位：円)

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計 画	実 績	計 画	実 績	
公益目的財産額	177,256,123	177,256,123	177,256,123	177,256,123	177,256,123
公益目的収支差額	18,013,600	17,499,374	22,517,000	21,559,827	27,020,400
公益目的支出の額	4,503,400	3,906,384	4,503,400	4,060,453	4,503,400
実施事業収入の額	0	0	0	0	0
公益目的財産残額	159,242,523	159,756,749	154,739,123	155,696,296	150,235,723

□ 実施事業(教育支援事業・継続事業)の状況等

1 事業の概要

- (1) 当該事業に係る公益目的支出の見込額 4,403,400円
(2) 当該事業に係る実施事業収入の見込額 0円

2 当該事業実施年度の実施状況

- (1) 当該事業に係る公益目的支出の額 3,960,453円
(2) 当該事業に係る実施事業収入の額 0円
(3) ((1)-(2))の額 3,960,453円
(4) 当該事業に係る損益計算書の費用の額 3,960,453円
(5) 当該事業に係る損益計算書の収益の額 0円
(6) 事業の実施状況

- ア 経済学部及び学生に対する教育支援事業
職業会計人コースに対する支援・助成、就職活動に対する支援
イ 講演会、シンポジウム及び関連諸行事に対する支援及び実績実績なし。

3 実施事業資産の状況等 (単位：円)

資産の名称	前事業年度末日の帳簿価額	当該事業年度末日の帳簿価額	使用の状況
建 物	2,766,158	2,565,482	計画どおり、引き続き当該事業で使用
建物付属設備	37,415	25,870	計画どおり、引き続き当該事業で使用
構 築 物	75,396	70,404	計画どおり、引き続き当該事業で使用
什 器 備 品	168,487	162,619	計画どおり、引き続き当該事業で使用

□ 特定寄附(公益財団法人山口大学後援財団に対する寄附)の実施状況

1 当該寄附の相手方の名称及び所在場所

- (1) 名 称 公益財団法人 山口大学後援財団
(2) 所在場所 山口県山口市吉田 1677- 1

2 寄附の実施状況等

- (1) 寄附内容 日中学術交流等助成事業への寄附
(2) 実施時期 平成28年12月1日
(3) 財 源 等 会費及び入会金収入
(4) 当該寄附に係る公益目的支出の額 100,000円
(5) 当該寄附に係る損益計算書の費用の額 100,000円

4 会報発行事業

- (1) 機関誌「鳳陽」の編集、発行及び送付・配付 (年3回)
- ・ 第160号(5月発行)
従来どおり、海外会員を含む全会員(住所判明者：約12,700名)へ送付
 - ・ 第161(9月発行)、第162号(1月発行)
当会の財政状況を踏まえ、正会員(年会費納入会員及び賛助会費納入会員：約2,900名)のみ送付
 - ・ 経済学部の教官(現・旧)、大学院経済研究科の在学学生、経済学部生及び新入生保護者等に配付
 - ・ 山口大学本部(総務部)、他学部同窓会及び他大学同窓会等へ送付

5 本年度の重点施策

年度当初に掲げた重点施策である鳳陽会活動の活性化の推進、財政基盤の健全化の推進、経済学部との一層の連携強化に向けて、次のとおり取り組んだ。

- (1) 鳳陽会各支部の活動に関するアンケート
- ・ 鳳陽会の全国40支部を対象にアンケートを実施し、その結果を取りまとめた。
 - ・ アンケート結果を役員、顧問及び各支部長宛て送付し、情報を共有
- (2) アンケート結果に基づく具体策についての検討・方針決定
- ・ 理事5名で構成する具体策検討プロジェクトチームを設置し、具体策への取組について議論を重ね、「アンケート結果に基づく具体策への取組」を取りまとめた。
 - ・ 理事会において「アンケート結果に基づく具体策への取組」について審議し、取組方針を決定した。

II 公益目的支出計画実施報告

□ 平成29年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の概要

- 1 公益目的財産額 177,256,123円
- 2 当該事業年度の公益目的収支差額((1)+(2)-(3)) 21,559,827円
- (1) 前事業年度末日の公益目的収支差額 17,499,374円
(2) 当該事業年度末日の公益目的支出の額 4,060,453円
(3) 当該事業年度の実施事業収入の額 0円
- 3 当該事業年度末日の公益目的財産残額 155,696,296円

4 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由

平成29年度は、実績額が公益目的支出計画の計画額を下回り、公益目的収支差額も計画額を下回っているが、平成30年度には休止していた寄附講座を再開することとしており、公益目的支出計画は、完了予定事業年度である平成64年度までには完了できる見込みである。

実績額が計画額を下回った主な要因は、平成29年度寄附講座の休止である。また、簿記大会団体チームの優勝がなく支援・助

Ⅲ 平成30年度事業計画

1 教育支援事業(母校、地域、在学生への支援)

- (1) 寄付講座(経済学部特殊講義Ⅰ)の開講(平成30年10月～平成31年1月の毎週金曜日)
講師4名(各3回担当)、聴講生毎回10名。これまでの講義形式を見直し、ゼミ形式で再開する。
- (2) 経済学部との連携による学生の就職活動に対する支援の推進
就職アドバイザー(鳳陽会会員)による個別相談、企業人事担当者及び就職アドバイザーによる模擬面接の実施等
- (3) 経済学部職業会計人コースに対する支援及び助成
全国大学対抗簿記大会及び海外研修費用の助成、公認会計士試験、税理士試験合格者の表彰
- (4) 経済学部における国際交流及びグローバル人材育成に対する支援及び助成
外人講師による英会話集中講義への助成
- (5) 卒業生、在学生の各学年、各学科の成績優秀者及びTOEIC成績優秀者の表彰
- (6) 教育、ゼミ活動、研究充実のための支援、助成及び講演会等の後援
- (7) 学生ゼミナール連合協議会主催の「卒業祝賀会」への助成
- (8) 山口大学後援財団の日中学术交流事業への支援

2 交流事業

- (1) 山口大学同窓会活動(ホームカミングデー等)への積極的参加
- (2) 山口大学他学部同窓会及び他大学同窓会との交流の促進
- (3) 卒業生(新会員)へ鳳陽会紹介冊子「花なき山の…」、記念品配付、贈呈
- (4) 新入学生の「保護者懇談会」等で「鳳陽会」を紹介し、同窓会活動に対する理解を促進
- (5) 山口支部総会への学生招待等、学生(留学生を含む。)と各支部との交流への積極的支援
- (6) 寮歌祭参加支部への支援(中央寮歌祭)
- (7) 本部ホームページの改善・充実、支部ホームページの開設
- (8) 本部情報システムの改善(名簿管理システムの改善、パソコン機器の更新)

3 同窓会関係事業

- (1) 各支部に対し「支部支援費」を配分して、支部活動を支援
- (2) 具体策の取組に当たり、本部と支部が一体となった体制を整えるため、全国支部長会議を開催
- (3) 鳳陽会の厳しい財政状況の改善の一方策として、会員の誰からも寄付金を受け入れることができる「寄付制度の創設」について、検討を進める。
- (4) 新卒業生及び既卒業生の動静把握、会員名簿の整理・充実に努め、会員動静を一層把握
- (5) 支部に対する積極的支援により、支部組織の強化・再編に取り組む。
- (6) 各支部総会等において、山口大学、経済学部の資料及び山口地域の情報を提供する。
- (7) 会員の動静管理、鳳陽会関係資料の一層の充実、会員データの迅速な検索、抽出及び提供
- (8) 山口で開催される同期会等を積極的に支援
- (9) 通常総会を全国の主要都市持ち回りで開催し、同窓生の交流に資する。
平成30年度:第88回通常(全国)総会、6月16日(出)、山口グランドホテルで開催

4 会報発行事業

- (1) 会員及び学生からも親しまれる、読みやすい同窓会誌「鳳陽」を目指して、年3回編集、発行
 - ① 第163号(5月発行)は、従来どおり海外会員を含む全会員に送付
 - ② 第164号(9月発行)・第165号(1月発行)は、当会の財政状況を踏まえ、正会員(年会費納入会員及び賛助会費納入会員)のみに送付
 - ③ 経済学部の教官(現・旧)や在学生、大学本部、他学部同窓会、他大学同窓会等に配付・送付
- (2) 110周年記念号の発行
164号(9月発行)を充実する形で、機関誌「鳳陽」の110周年記念号を発行

5 本年度の重点施策(再掲)

鳳陽会110周年を期し、鳳陽会の同窓会活動の活性化を図り、次の世代に同窓会活動を繋いでいくために、アンケート結果に基づく

具体策として、次の3項目を柱として展開する。

- (1) 組織運営体制の強化
同窓会活動の基本である会員の動静把握に努めるとともに、支部組織の強化・再編に取り組み、鳳陽会の組織運営体制の強化を図る。
- (2) 110周年の節目に
支部活動の支援、寄付制度の創設、機関誌「鳳陽」の110周年記念号の発行、定期発行分の内容の充実を始めとする具体策についての検討・取組を進め、鳳陽会の同窓会活動の活性化を図る。
- (3) 全国支部長会議の開催
具体策への取組に当たり、全国40支部に周知徹底し、本部と支部が一体となって取り組む体制を整えるため、「全国支部長会議」を開催する。

Ⅳ 平成30年度 収支予算

(単位:円)

科 目	当年度予算	前年度予算	増 減
I 一般正味財産増減の部			
I 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	3,069,000	5,420,000	△ 2,351,000
受取入会金	7,600,000	7,600,000	0
受取会費	3,200,000	3,200,000	0
受取寄付金	100,000	100,000	0
受取広告料	665,000	485,000	180,000
受取利息	5,000	5,000	0
雑収入	70,000	70,000	0
経常収益合計	14,709,000	16,880,000	△ 2,171,000
(2) 経常費用			
① 事業費	20,071,000	12,045,000	8,026,000
給料手当	3,278,000	3,266,000	12,000
福利厚生費	480,000	476,000	4,000
教育援助費	2,140,000	2,140,000	0
情報交流費	2,020,000	1,010,000	1,010,000
減価償却費	521,000	521,000	0
通信運搬費	1,450,000	1,490,000	△ 40,000
消耗品費	30,000	30,000	0
「鳳陽」刊行費	1,850,000	1,800,000	50,000
同窓会事業費	8,134,000	1,154,000	6,980,000
光熱水料費	168,000	158,000	10,000
② 管理費	4,933,000	4,835,000	98,000
給料手当	1,426,000	1,414,000	12,000
福利厚生費	218,000	217,000	1,000
会議費	150,000	150,000	0
旅費交通費	580,000	660,000	△ 80,000
通信運搬費	440,000	380,000	60,000
減価償却費	223,000	223,000	0
消耗品費	130,000	130,000	0
消耗品什器備品費	80,000	80,000	0
修繕費	40,000	40,000	0
光熱水料費	72,000	68,000	4,000
賃借料	760,000	740,000	20,000
租税公課	284,000	273,000	11,000
雑費	530,000	460,000	70,000
経常費用合計	25,004,000	16,880,000	8,124,000
当期経常増減額	△ 10,295,000	0	△ 10,295,000
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(1) 経常外費用			
経常外費用合計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 10,295,000	0	△ 10,295,000
一般正味財産期首残高	60,701,996	61,868,550	△ 1,166,554
一般正味財産期末残高	50,406,996	61,868,550	△ 11,461,554
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減高	0	0	0
指定正味財産期首残高	120,300,000	120,300,000	0
指定正味財産期末残高	120,300,000	120,300,000	0
III 正味財産期末残高	170,706,996	182,168,550	△ 11,461,554

注)上記収支予算は、平成20年会計基準の損益ベースで作成

「鳳陽会」は、皆様方の年会費を基本にして運営しています。

鮎川義介 我が道を往く (第5回)

松野浩 二(学一)

アメリカに出発

身分をかくして芝浦での現場作業はスタートしたが、思わぬことから身分がばれてしまった。鮎川が、手伝った起重機の操作を誤って相棒の足の親指を潰してしまった。入院した彼を鮎川は終始見舞った。そんなある日、井上家に恩賜の菊の御紋入りの菓子が届けられた。その一片を頂戴したので、それを入院している彼に差し入れたことから足がついて、鮎川の素性が知られてしまった。それから仲間の職工たちの態度ががらりと変わり、気安く付き合ってくれなくなった。居心地が悪くなったので職場を変えてもらい、機械、鍛造、板金、組み立てなどを転々とし、最後は鋳物工場で作業した。

こんなこともあった。職工の給与は安く、小遣いに不自由したのでアルバイトを始めた。その一つに報知新聞が計画しているフランス製三色刷りの輪転機の据え付け工事があった。新聞の色刷りは我が国で初めてというので、これは面白いと引き受けた。当時の職工は和服に襷掛けであったので、天井から下がっているベルトに、たもとが巻き込まれ怪我人が多発した。鮎川はベルトを床の下に移すことを考えついて設計を変更した。結果は大成功で、感謝状と賞金300円をもらった。職工の日給45銭の当時としては大金である。

この間にも余暇を割いて、大学時代と同じく、いろいろな工場を見学した。そして「我が国で成功している企業はすべて西欧の模倣である。一方、日本の古くからの『ものづくり』には進歩の跡が見えない。例えば、呑む人の少ないビールは外国の醸造所を模倣して堂々たる工場を構え、大学卒の技術屋を採用している。これに対し呑む人の多い日本酒は依然として昔ながらの製法を変えていない。

こんな状況では手本になる先生は日本にはいない。外国に出かけて勉強する以外に方法がないと、外国留学と修行を決心した。行先はアメリカと決めた。狙いは鋼管か可鍛鉄鉄物である。第一希望の鋼管工場は技術は社外秘であると断られたので、第二希望の可鍛鉄鉄を狙った。たまたま三井物産が台湾の工場を使う自動車連結器を取り次いでいた関係で、バッファローとナイヤガラの間にあるデピューという田舎町にあるコウプラーの工場に週給5ドルの見習工として採用された。さらにイリー市のマリアブル・アイアンの工場に移り、研究と現場作業に取り組みようにお膳立てした。

日露戦争が終結してポーツマス条約が締結(9月5日)されて2ヶ月後の明治38年11月、横浜港からグレート・ノーザンのデコダ号に乗り込みシアトルに向かった。船室は4等で、船尾のスクリュウに接した穴蔵のような移民向けの部屋であった。時化の時はスクリュウが空転する音でとても眠れたものではなかった。ともかく、シアトルに入港したのが、11月29日、13日間の船旅であった。そこから三井物産の人たちの案内で、汽車を乗り換え乗り換えして6昼夜かかってニューヨークに到着した。

日本を取り巻く情勢
鮎川が生まれたのは明治13年(1880)、アメリカに向って旅立ったのが明治39年である。その間26年間の波乱に満ちた日本と世界の情勢について触れておきたい。ペリーの来航で幕を開けた幕末がその幕を閉じ、日本が手探りで新国家建設に立ち上がるうとし、日清、日露の二つの大戦に勝利し、世界列強の仲間入りをしたのが、ちょうどその期間に該当するからである。

国内情勢
明治新政府は、五ヶ条の御誓文で「知識を世界に求め、広く皇基を揮興すべし」と高らかに宣言し、外国に門戸を開いたのであるが、その前に大きな障害が立ち塞がっていた。幕府が諸外国と結んだ修好通商条約の改定である。これは新生日本の急務であった。これを改定しなければ日本の財政は安定しない。明治政府は必死であった。

アメリカおよび諸外国と結んだ修好通商条約は「修好」とはほど遠い不平等条約であった。独立国が締結する条約ではない。外国は日本を半植民地とみなしていたのである。

まず、領事裁判権である。日本で外国人が犯罪を犯した場合、その裁判権は日本側にはなく、当該外国の領事が開く裁判所によってこれを裁くという条約である。世界に通用する近代的な法体系を持つていない日本に任せる訳にはいかないというのである。征韓論で敗れた前の参議、江藤新平が謀反の容疑で捕えられたが、裁判もなく即刻処刑された事件を外国は見逃してない。何より新政府の大官はつい先ごろまで、攘夷と称して外人斬りに奔走していた前科がある。大隈重信は国内裁判に外国人判事を起用するという奇手を提唱したが、右翼団体の玄洋社の暗殺の標的となり、馬車に爆弾を投げ込まれて片足を失った。まさに「血みどろ」の条約改正運動であった。

次に旧条約には関税自主権がなかった。日本に輸入する物品に日本の定めた関税をかけることができない。相手任せである。国際慣習を知らない日本は、いざとなればペラボーな輸入関税をかけてくる恐れがあるというのである。

この不平等条約の改定は明治新政府の悲願であり、血のにじむような努力を続けること実に30年に及んだ。対等な新条約が締結されるのは明治32年である。その間に流出した日本の富は莫大なものがあつた。

もう一つの問題は、幕府が認可した諸契約の後始末である。プロシヤ(ドイツ)は、どさくさに紛れて、北海道七重村を租借してしまった。アメリカは東京、横浜間の鉄道建設とその経営権を手に入れた。実現すれば駅と沿線は治外法権となる。イギリスとフランスは横浜、神戸、大阪などの居留地内に堂々と軍隊を駐留させた。横濱のそれは2万坪に及ぶ。広大なものであつた。これらの問題は新政府がそれぞれの国と交渉して白紙に戻した。勿論タダではすまなかった。

国際情勢
当時の欧米先進国の状況

はどうであったか。

トップランナーは七つの海を支配していた大英帝国であった。この国はいち早く産業革命を成功させて世界の工場となり、強大な海軍と世界中に拡げた海運網によって製品を世界中に売りさばいた。それを可能にしたのが蒸気船の登場であった。

イギリスはいち早く大西洋航路を開いただけでなく、ロンドン・ジブラルタル・マルタ島・スエズ運河・インド・シンガポール・香港・上海に至る航路を開いた。情報網に関しても抜かりはなかった。日本が戊辰戦争を戦っている頃には電信ケーブルを大西洋「1886」とインド洋「1870」に敷設している。まさに「パクス・ブリタニカ」であった。

日清戦争

青写真を持たないで船出した日本丸も、次第に近代国家として体制を整えていった。憲法も制定した。国会も開催した。教育勅語も軍人勅語も下賜された。目指すのは「国民国家」の建設である。

明治20年半ば、日本と清国は朝鮮の統治介入を巡っ

て対立し、ついに戦火を交えることになった。

清国はアヘン戦争やアロー号事件などで大きな打撃を被ったが、依然、アジアの強大な帝国で、まさに「眠れる獅子」と目されて、日本より国力は上とみなされていた。それを支えていたのが海軍力であった。李鴻章が創設した北洋艦隊の「定遠」「鎮遠」は排水量7千トン、30.5センチ砲4門を備えた戦艦であった。これに対して日本が頼みにする主力艦の松島、橋立、厳島の3艦は4千トンの重巡洋艦である。

しかし、清国内では軍閥が割拠し、李鴻章は北京の軍閥衙門と抗争を繰り返していた。しかも北洋艦隊は李鴻章の私設艦隊であり、兵の練度も低かった。これに対し、日本は戊辰戦争や西南戦争の内戦を経て、明治新政府は「国民国家」としてのシステムを整えていた。国民もそれを自覚し始め、日清戦争は国を挙げての総力戦が可能であった。その差が戦いを決した一番大きな要因である。

日本は巨額の賠償金2億両(3億円)を手中におさめ

た。当時の国家予算を大きく超える金額である。この資金で日本資本主義の発展育成のための財源を得た。

この戦いはアジアの歴史を変えた。

鮎川は山口県立山口尋常中学校在学中であった。

日英同盟

大英帝国にとって気になる存在があった。北の大国ロシアである。極北のロシアは何としても不凍港を手に入れたいと、あの手この手を繰り出している。しかし、ヨーロッパではイギリスの包囲網を破ることができない。そこで目を付けたのが極東の清国である。

日清戦争で日本が手に入れた遼東半島の権益を、三國干渉で強引に返還させ、その後、旅順と大連を占領するという文明国家として正当性を失うようなことまでして不凍港を手に入れた。次はインドを狙いかねない。これに危機感を覚えたのがイギリスである。中国はイギリス本土から最も離れた権益で、そこに陸続きのロシアが南下してくれば命綱のシーレーンが分断されかねない」と心配したのであ

る。

極東の権益をイギリス単独で守れないとすればどうするか。その答えが日清戦争で力を見せた日本との同盟であった。ロシア南下の防波堤の役割を願ったのである。この同盟は日露戦争の陰の勝因となる。

日露戦争

日清戦争がアジアの歴史を変えたことは前述したが、日露戦争は世界の歴史を変えた。

非西洋国家が近代化を図り、ロシアという大国に勝利したことによって日本が世界の大国の一員に加わったのである。それは西洋中心の世界秩序を攪乱することにもつながっていく。

この戦いは膨大な物量とカネを消費し国を挙げての総力戦であった。擁した戦費は日清戦争の2億円に比べて8.5倍の17億円(現在価格で7兆円)。当時の国家予算3億円の約6倍に達した。紙面の都合もあるので、戦争の様子は割愛して、感動的な挿話を述べてこの項を終わりたい。

日本海海戦前の最大の問題は、バルチック艦隊が対馬海峡と津軽海峡のいずれを通過するかということだ、

国を挙げての懸念であった。北上するロシア艦隊を最初に発見したのは宮古島の漁師であった。役場に駆け込んだが島には無線施設がない。そこで5人の漁民が無線施設のある石垣島までの170キロを漕ぎ抜き、山道を走破して電報をうった。

それが特務艦信濃丸によって中継され大本営に連絡できた。一介の離島の漁師でさえも日露戦争が日本の運命を左右するものであることを理解していたことに感銘を覚える。

アメリカの台頭

アメリカは若い国である。13の植民地がイギリス本国から独立したのが1783年、南北戦争が終結して一つの国にまとまったのが1865年、慶応元年である。因みにドイツがビスマルクの指導のもとにドイツ帝国が成立したのは1871年、イタリアで小国の乱立を統一してサボイア王朝が成立したのは1861年である。日本の明治元年(1868)とほぼ時を同じくしている。

これら新興国、特に米独日は、国民国家を形成し、猛然とトップランナーのイギリスを追いかけた。その中で最も迫力があったのが

鮎川が修行したアメリカである。

アメリカは海洋国家であり、貿易が国の命綱であることを認識していた。蒸気船を自前で建造したが、その船は戦時には軍艦に転用できるように設計されていた。それを指導したのが浦賀に来航したペリーであった。その故に彼は「蒸気船の父」と呼ばれた。日本海海戦の戦略を立てた秋山真之は、日本の殆どの海軍士官がイギリスに留学するなか、アメリカを選んでい

すがである。アメリカはまず、イギリスが独占していた大西洋航路に割り込んで次第にそのシェアを奪っていった。しかし、アメリカが工業の世界史上で果たした最大のものは、フォードのコンベヤーシステムと、コルトの部品の標準化に代表される近代製造技術とシステムの原型を創設したことである。一つだけコルトの例をあげよう。

コルトは1835年世界で初めて回転式6連発ピストルを発明した。政府から大量の注文を受けたとき、100丁の拳銃を机の上にバラバラに

分解し、それを瞬く間に組み立ててみせた。部品の一つ一つが標準化されているのである。互換式生産方式である。これに対し、日本が世界に誇るゼロ戦は、A機の扉が壊れてもB機の扉を転用することができなかった。熟練工の技術による「嵌め合わせ」を必要としたのである。

アメリカにて

閑話休題、本筋に戻ろう。グルド・カップラーに就職した鮎川は、ここでも現場作業から仕事を始めた。週給5ドルの見習い工である。宿は鋳物現場親方の家で世話になったが、そこでは家族同様の扱いを受けてアメリカの生活を楽しんだ。しかし、鋳物現場の作業は小柄な鮎川にとってきつかった。

反射炉から流れ出る150度の熔湯を取鍋に受けて、持ち場の鋳型場まで駆け足で運んで熔湯を鋳型に注ぎ込む、そして砂型をばらして灼熱の鋳物を取り出してかき集めるといって一連の作業の繰り返しである。

日本では取鍋の重さはせいぜい5貫であるが、ここでは10貫に近い重さであり、

しかも一気呵成に作業しなければ湯が冷める。

芝浦では一人前であった鮎川も、綿のように疲れて宿に帰った。足の甲に熱湯がこぼれて火傷をしたのもこの頃である。

町の人たちは、ロスケを破った日本人とはどんな人間かと興味を持ってきているから火傷が治っても頑張り通した。

そのうち彼らと同じような作業ができるようになった。作業には「ゴツ」があることを知ったのである。それは柔道で小が大を投げ飛ばす「ゴツ」に通じるものである。

鮎川はこの頃の奮闘を、後に「私の体験から気づいた日本の貴き資源」と題して講演した。以下はその要旨である。

「アメリカにおける現場作業は、実に得難い体験であった。日本人は労働能力において西洋人に劣るものではない。彼らが体格や腕力に優れている代わりに、我らは先天的に手先の器用さと動作の機敏さとゴツという特性を持っており、頭の働さも負けない。従って仕事の効率を彼ら以上にで

きないはずはない。そうだとすると、賃金は彼らの五分の一であるから、もし組織や規律や工程等をアメリカ並みにレベルアップすることができたら、運賃、関税、金利のハンデキャップはあっても、輸入の防止はもとより逆に輸出できないはずはない。日本は国土が狭く人口が増えて農業立国はできない。天然資源もないとすると第一次産業の未来は暗い。列強に伍してゆく方策は第二次、第三次の加工工業が残されているのみである。思うに神様は絶対に公平である。日本は領土や物的資源に恵まれぬ代わりに、世界無比の万能工業人の種子をあまるほど授かっている。これこそ尊い資源でなくて何であろう。なお、信用さえあれば外国の資本も流れてくる。これによって原料でも材料でも持てる国から遠慮なく、場合によっては安く買うことができる。従って今後の日本は全国を工業化して、労使協調、勇往邁進すべきである。」

黒船をひきいて浦賀沖に来航し、日本の長年の眠り呼び覚ましたペリー提督も次のような感想を残している。「技術の分野で日本人の腕は大したものである。彼らの手先の器用さは驚異的で、そのレベルは世界のどの国の職人にも劣らない。この力がもつと自由に發揮されるなら、世界の最も進んだ製造国と肩を並べる日も遠くないであろう。」

次にグルド工場で学んだ生きた教訓について述べておこう。鋳物砂をすくうシャベルの扱いである。

仕事を終えてから、彼らはシャベルに食いついた砂をきれいにふき取った後、丁寧に油布中で拭いてから所定の場所にきちんと収納する。砂がついたままでは手さばきが悪いうえに、湿気が一晩で赤錆を呼ぶから、研がない刃物と同じく切れ味が鈍くなる。この点日本人は一向に無頓着で、面倒くさがるという風習がある。

元来、生物だけが意識を持つていると思うのは人間の錯覚で、神様は物にもそれを与えている。それを善

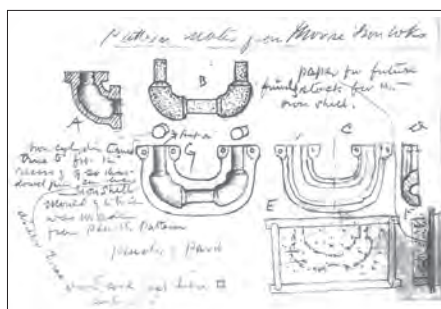
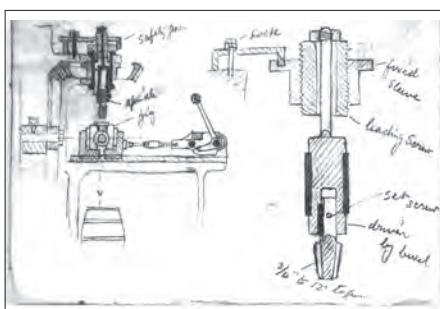
用できるのは愛のつながり以外にはない。磨いたシャベルがよく切れるのは、そのものが人間に対するサーブスであつて、人間の愛情に対する報酬と考へるべきである。この関係はお金に最もよくあらわれる。金は金を愛する人を慕って集まるが、粗末に扱おうと、すぐに逃げてゆく。たまに紛れ込んでみてもすぐに逃げてゆく。これは金に精があるからである。故にお金のことを「おあし」という。

このシャベル哲学はその後の鮎川の尊奉してやまなものととなった。

鮎川のアメリカ滞在は僅か1年半であったが、その間の勉強ぶりは凄まじいものであった。その一端を彼の書き残した小型ではあるが分厚い手帳にみる事ができる。

冒頭は英語の単語が始まるが、彼が作業に使った道具類、機械装置に始まって工場建屋から製品にまで及んでいる。それぞれ寸法が細かく記されていて、復元が可能のように説明が付記されている。そして、何よりその絵が実にうまく、正

確なことに驚く。今でもそれに目を通すたびに「我ら励まざるべけんや」という思いを新たにす。参考までに、2枚を掲げておく。



同じ頃、鮎川の他にも身アメリカに渡って現場の作業を体験して、近代工業を学んだ若者たちがいた。安川電気の創立者、安川

第五郎は大正2年に渡米し、ピッツバーグのウエスチングハウスで職工として働いた。1時間20セントの時間給であった。

中部電力の井上五郎は東邦電力から出向してニューヨーク州スケネクタデー市にあるジェネラル・エレクトリック社で働いた。大正14年である。1時間50セントの時間給であった。

3人の週給を並べてみると、鮎川5ドル、安川9ドル、井上23ドルであり、時代の変遷を映して興味深い。彼らに共通していたのが言葉の問題であった。教科書で学んだ英語は全く通じない。現場で働くアメリカ人の英語はスラング交じりで意味が分からなかったという。

鮎川の日本語は生涯、山口弁丸出であったから、英語も山口弁訛りであったのではないかと、私は想像している。

戸畑鋳物(株)発足

グルド・カップラーとマレブル・アイアン2社での修行で、可鍛鋳鉄の製造技術は手に入れた。その上、経営上の自信もついたので、1年半の予定を切り上げて

日本に帰り、事業を立ち上げる決心をした。明治40年(1907)2月、鮎川28才である。

帰国して、まず井上侯に会って、可鍛鋳鉄製造の新会社を立ち上げたいと報告した。井上は即座に賛成し、さっそく久原、貝島、藤田、三井に口をきいてくれ、30万円の出資を得ることができた。

「戸畑鋳物」のスタートである。

当時、鋳物事業に、しかも28才の若造に30万円もの大金を投資するのは稀有な事であった。井上の実業界での威力によるものである。

会社の定款は山口高校の同窓生岩田宙造(後の司法大臣)に依頼し、工場用地は貝島炭鉱が所有していた戸畑駅に隣接している土地を現物出資してもらったが、

この土地は工場用水の確保が困難であり、また北九州の片田舎のため運搬費も東京や大阪に比べて15%も高くつくということが分かった。何もかも大当て外れであった。その他、従業員の募集など山のような仕事

が、鮎川の肩にかかってきた。超多忙のなか、帰国して1年後の明治41年3月、設

備の見積りや販路の調査のため再度渡米した。当初の予定は下調べをして帰国し、出資者に相談するつもりであったが、当時のアメリカは不況の真つただ中で、工場設備等信じられないほど安かった。絶好のチャンスと、独断で機械設備はもとより、工場建屋まで買入られた。

ところが、その途端に風邪をこじらせて、不眠症まで引きおこし、出資者に申し訳ないという責任感から一睡もできなくなった。遺書めいたものまで書いたのもこの時である。

思い余った鮎川はドイツに留学中の友人、吉本医師に相談するためにベルリンに飛んだ。彼の紹介で世界的権威のクラウス先生の診断を仰ぐことができた。

先生は名医であった。まづ顔色を見るなり「気がいいになるタイプではない。2ヶ月や3ヶ月眠れないのは問題ではない」と言い切り、「食事はどうか」と聞くので、「いけません」と答えると、「心配無用」と鮎川の肩をたたいた。そして、「葉はおま

じないみたいなので、飲んででも飲まなくてもいいが、

牛乳は一日2リットルを飲むこと」を命じられ、「仕事は休んではいけないが、当分、気候の温暖なイギリス南部での静養」を勧められた。先生の診断に従ってイギリスデボン州トルキーで静養していると、病氣は薄紙をはぐように回復に向かい、4ヶ月ぶりにアメリカに帰ることができた。

この間に、鮎川の注文した品物はすべて出来上がっていたので、後の処理を三井物産に任せて日本に帰った。明治42年9月であった。明治43年、戸畑鋳物は登記を完了し、5月27日、井上侯一行を工場に迎え、盛大な開場式を挙行了。鮎川の肩書は専務取締役兼技師長である。

しかし、普通の技師長ではない。現場に陣頭に立つて、ズブの素人に手をとって教え込んだ。というのは、いわゆる日本の鋳物職人は自己主張が強く、アメリカ式の近代鋳造法に反発すると思っただけで、敢えて素人

を採用したのである。後の話になるが、鮎川が教え込んだ鋳造技術は後に「戸畑式鋳造法」として喧伝され、

鮎川の教え子が各地にその

技術を広めていく。一例をあげよう。

鮎川が日産コンツェルンの総帥となった頃、日産自動車の吉原工場を視察した時のことである。工場長に案内され工場通路を歩いていた鮎川が突然歩みを止め、通路脇にあった鋳物を手に取って「これは戸畑の鋳物だ」と言った。驚いた工場

幹部が作業者を呼び出して確かめたところ「私は戸畑で鮎川さんから鋳物の鋳造を教わりました」という返事が返ってきたという。鮎川の眼力は衰えることがなかったのである。

また、鮎川の手は岩のように固かったという。後年、若い技術屋と握手をして「まだまだ柔らかいな」というのが常であった。私が日立製作所に入社した頃には、鮎川から直接薫陶を受けた人が残っていて、「鮎川さんの手は固かったぞ」と感激を込めて語ってくれたのを思い出す。

本田技研の創立者、本田宗一郎さんの手も傷だらけで、岩のようであったという。

機縁

戸畑鋳物はその後M&A

で事業を拡張し、国産工業と名称を改め、さらに日立製作所と合併したので、名称は日立製作所戸畑工場となる。

私が昭和28年に山口大学経済学部を卒業して日立製作所に入社し、最初に配属されたのが、この戸畑工場であった。

この工場はさらに変遷を重ねる。昭和31年旧国産工業系の5工場が日立製作所から分離独立して日立金属となる。

運命の糸はさらにつながる。私が日立金属の社長の頃、鮎川がアメリカで修行したエリー・マレブル社に資本参加し、1997年に全株式を買収した。その調印式でエリー市を訪問した時のことである。何しろ百数十年も続いたエリー市の名門企業の身売りであり、さらに買収した会社が、鮎川がこの会社で技術を習得して日本で創立した戸畑鋳物の後進会社である日立金属と

あって、地元新聞が一面を全部うずめて、その物語を掲載した。その間、年を閲すること90年である。私は一躍有名人名人になってしまった。

もう一つの機縁がある。

鮎川が二度目の渡米をし、手当たり次第に生産設備や用具さらに工場建屋まで買いまくったことはすでに述べたが、その建屋の物語である。

当時、戸畑工場のある土地は、寒村ながら、鹿兒島本線戸畑駅に隣接した便利の良い所であった。ところが北九州一帯は、官営八幡製鉄所をはじめ多くの企業が続々と進出し、戸畑は人口密度日本一の市になり、戸畑鋳物の工場はそのど真ん中になってしまった。当然のように、工場の周りにはビルやマンションが林立した。鋳物工場は三Kの最たるもので、騒音、粉塵問題の対応に追われるようになってきた。公害訴訟の心配も出てきた。

拡張の余地もないことから、思い切った工場を、かねて用意していた隣の町荻田地区の10万坪に移転することになった。

こうして鮎川の創設した戸畑工場はその幕を閉じた。昭和62年(1987)4月移転完了。

そのころ私は、工場閉鎖に当たって、創業者、鮎川義介を顕彰するものはないかと、思索していた。その

一環として、戸畑工場を訪れ、解体現場を視察していた。

移転作業は生産設備の移転が終わり、最後に工場建屋の取り壊しが始まっていた。建屋は鮎川がアメリカから輸入した建材で建てられたのであるが、その後の拡張や改造で、多くがその姿を変えていた。たった一つ残っていたのが、模型工場であった。建材にペンキで印刷されていた「U.S. STEEL」の文字が私の目に飛び込んできた。この建材は70数年を経て、発錆もなく当時の姿を保持していた。

「これだ」「この建材を利用して、鮎川記念館」を作ろう」と即座に決心した。その後、事情もあって記念館名称は「鋳物記念館」としたが、その文字は私が、万感の思いを込めて書き上げた。

なお、戸畑工場跡地には長年お世話になった、戸畑市のために「日立金属劇場」を建てて寄贈した。

昭和31年初秋、鮎川は日立金属の分離独立を祝して詩文を寄せた。

江連玄海老漁村

江は玄海に連なる老漁村

好適場区動我魂

よく場区に適し我が魂を動かす

杷手鋤鋤為地鎮

手に鋤鋤をとりて地鎮を為し

捧壇幣帛謝天恩

壇に幣帛を捧げて天恩に謝す

宮々特種鋳鋼業

宮々特種鋳鋼の業

噴々盛名瓢印痕

噴々盛名瓢印のあと

躍進無窮冠業界

躍進窮りなく業界に冠たり

可忘報本感淵源

忘るべけんや本を

報い淵源に感ずることを

同期会だより

大学13・14・15期(福岡)

第23回 瑠璃の会

2月9日(金)18時、福岡支部の大学13・14・15期合同同期会に15人が参集しました。

博多の御膳屋「菴離」にて一年振りの賑やかな同期会になりました。

今回は鬼丸修一氏(学12)が初参加、また、山口市より雪の中を淵上洋一氏(学13)も参加されました。鬼丸氏の初参加挨拶に続いて、秋山邦雄氏より「見残しの塔―周防国五重塔縁起」(久木綾子



今年も賑やかな同期会

著)について紹介説明がありました。また、箱嶋文衛氏より箱嶋家住宅(国登録有形文化財)の今後の在り方の説明がありました。(いずれも資料あり)。続いて木下謙吉氏の乾杯発声によりワイワイ・ガヤガヤといつもの飲

歴史と文化の山口県に軸足を置いて 公益活動を展開する山口県人ゆかりの会

講演会活動、奨学金貸与、教育・文化研究活動、
先賢遺徳顕彰事業

公益財団法人 防長倶楽部

理事長 八木 重二郎 (山口市出身)
顧問 松野 浩二 (学1 防府市出身)
顧問 村岡 嗣政 (山口県知事)

〒108-0074 東京都港区高輪3-25-23 京急第2ビル
Tel.03-3445-9111 Fax.03-3445-9122
URL: http://www.bochoclub.com
E-mail: kouzai@bochoclub.com

—入会をお待ちしております—

新発売 山口大学醸造部 鳳陽

山口大学ブランド日本酒 長州学舎

純米大吟醸 720ml 2,580円(税込)
純米酒 720ml 1,390円(税込)

ご注文は(有) 大学文具へ
〒753-0094 山口県山口市野田1番地
TEL/FAX:083-609-2554 http://www.daigakubungu.com/index.html
Email:daigakubungu@gold.megaegg.ne.jp

売上利益の一部は山口大学奨励は山口大学基金へ寄附いたします。他の商品についても、山口大学の教育研究支援のための寄附につながります。

【参加者】(敬称略)

学12:鬼丸修一 学13:右松徹也、木下兼吉、柴田壽一、西田隆一、淵上洋一
学14:河合慶司、川寄正比

談に入り、恒例の各人の状況報告では、全員70代半ばの為か病気体験談が主で、それでも宴会大好きらしい盛り上がりとなりました。最後に西田隆一氏のリードにより鳳陽寮寮歌・山都逍遙歌を高唱し、古澤正道氏により「博多手一本」を入れたところで、「来年は2月8日(金)」を告げ、お開きとなりました。

古、箱嶋文衛、古澤正道
八尋洋士 学15:秋山邦雄、倉田尚道、堤雅史、安枝昭雄

(八尋 記)

動 静

住所変更

★高商経専の部

経39 川野 虎雄
経40 近藤 清
経44 谷本 克弘

★大学の部

学2 福光 泰雄
学4 木本 陽一
学5 磯部 昇
学6 角川 敏行
学15 田中 照久
学15 森田 侃爾
学29 築岡 久治

学65 学65 学64 学63 学63 学57 学56 学46 学41 学40 学36 学34
深山 宮田 深木 滝本 岡村 永井 安川 平田 石田 田口 田中 武田
慶一 淳樹 繪美奈 紳 さち 佳菜子 慎太郎 和正 保史 康二郎 典子 省一



賛助会費納入者 (敬称略)

ご協力ありがとうございました。

田口 浩一 (学18)
大鶴 秀明 (学20)

東京ほうよう句会

水温水温み瀨音のゆるむ鶴見川
薬師池揺る水の面や水温む
陽炎の遙か彼方に大鳥居
花曇り油彩に色を加へけり
江の島や遙か白富士陽炎へる
長閑なる風鐸の音野を渡る
旋回に別れ惜みて鳥雲に
囀りの途絶え鎮もる葉師杜

立石 山名 中川 武田 重永 重田 河内 國本
健三(客員) 和雄(学7) 弘喜(学7) 伸昭(学7) 泰彦(学2) 青都(学2) 朝生(学2) 桂伸(高37)

住所不明者
会報が返送されず。住所をご存知の方はお知らせ下さい。

学65 学64 学64 学64 学64 学64 学64 学64 学64 学63 学62 学60 学59 学53 学45 学40 学9

中野 藤元 濱崎 須賀 下中 佐藤 古賀 金尾 牛島 青山 狩又 知念 大賀 山本 中元 早川 桑原 安弘 尚史
理恵 良太 真奈美 睦 梨穂 翠 保洋 遼 未 美穂 義己 如月 拓朗 美紀 明哲

謹んでお悔み
申し上げます。



★高商経専の部

山田 繁(高33) 29.10.23
岩崎 敏樹(高35) 30.1.17
村上 清(高35) 30.1.17
松浦 徹(高36) 30.1.16
櫻井 彰(高39) 29.8.9
田中 利保(高39) 29.1.1
野崎 明(高39) 30.1.30
小北 裕一(高40) 30.2.15
藤原 博成(高40) 27.6.1
吉永 勝商(高40) 29.11.5
水流 洋(高41) 29.12.19
藤本 昭八郎(高41) 29.1.1
森田 昌博(高41) 29.1.1
松井 章(高42) 30.1.1
吉田 克(高42) 29.11.27
秋本 幸雄(高43) 29.3.28
菅 直登(高43) 29.10.19
玖島 純男(高43) 28.8.1
小灘 邦男(高43) 30.1.2
平田 淳(高43) 29.7.1
竹田 昭義(高44) 29.1.1
山川 重和(高44) 29.5.31
吉永 一(高44) 29.11.16
池田 光吉(高44) 30.1.7
矢吹 勝(臨専) 30.1.7

★大学の部

犬塚 満生(学2) 29.12.2
菊池 健(学4) 30.2.23
玖村 健三(学4) 30.1.1
重水 一成(学4) 30.1.12
岡田 健(学5) 29.12.31
平田 誠一(学5) 29.12.26
山本 修祿(学5) 28.10.17
大坪 規(学6) 28.11.9
清水 友勝(学6) 29.10.19
倉嶋 勝美(学7) 30.2.1
松永 勝人(学8) 29.9.28
山田 宏(学8) 29.7.30
山本 久(学8) 30.2.24
伊藤 敏雄(学9) 30.1.27
檜垣 吉昭(学9) 30.1.3
坂本 勝美(学10) 29.12.6
大須賀 守(学12) 27.4.9
越路 清士(学12) 29.4.1
棗田 喜八(学14) 29.1.1
川畑 聖哉(学16) 29.1.1
田中 宏(学17) 29.3.1
友松 正旺(学18) 30.2.4
境 隆之(学19) 29.1.1

【お詫び】

前号162号にて「学1 富山賢」様と掲載いたしましたのが、誤りでした。ご本人はもとより、皆様にご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

これまでも、そしてこれからも
「信頼」と「価値」を提供してまいります



大中物産株式会社

代表取締役社長 河窪 博史 (学24)

〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-11 七十七銀座ビル
TEL: 03-5550-5555 FAX: 03-5550-5575
URL http://www.daichu.co.jp/ E-mail info@daichu.co.jp

SINCE 1929 山口日産グループ
YAMAGUCHI NISSAN



代表取締役会長 末富 喜昭 (学19期)

〒753-0251 山口市大内千坊6丁目2番1号
TEL.083-922-2200(代) フリーダイヤル 0120-008923

詳しくは、Webにて 山口日産 検索

台湾ひとり紀行 (その3)

村上庄蔵(学3)

年令と共に衰える体力と気力...しかしながら趣味としての一人旅の楽しさに勝るものはない私は、この度も旅行先を台湾とした。平成29年は何かと体調が優れず、内科等でお世話になる日が続いていた。半年かけてほぼ全快したが秋になった10月、今度は白内障に襲われた。手術は12月後半に無事終了したが、術後の回復状態の心配があり本年1月初めの出発予定を2月に延期した。台湾では旧正月直前の繁忙期であったため、航空便とホテルの予約変更にししばかり手間取った。

- ① この度の旅行計画は、
- ② 新竹近郊の観光と本場のビーフン(米粉)を食べる事、
- ③ 台北〜桃園〜中壢(環北)



林口駅の看板

に開通した新高速鉄道(MRT)乗車体験、としていた。ところが、である。出発直前の2月6日早朝、東部海岸・花蓮市で大地震が発生、多数の死傷者と建物倒壊があり旅行するような雰囲気ではなくなった。二案の新竹近郊は、一日の日程では無理と分かり断念した。再度予定を変更してMRTに乗りし中壢に向かった。ところが途中の林口から天候が急変して暴風雨となり、林口・桃園にある大規模アウトレットモールへ行くことが出来なかつた。この高速鉄道は台北〜桃園国際空港間を快速電車(直達車)は35分で運行し、定時性にやや難があるリムジンバスを補充することになった。旅行者にとっては交通機関の選択肢が増えたことは有り難いことである。



台北市内の大型ショッピングセンター・微風広場の入口にて

帰国に際して思ったこと。台湾の出入国者が激増していることは申し上げたが、この度は混雑さを痛感した。少なくとも3時間前に空港に到着すること、である。私は膝痛を理由に空港関係者専用のゲートを通り、出国手続き後は専用の自動車に乗せていただいたが、それでも2時間を要した。短期の台北滞在ではあったが、その間の新聞各紙は旧正月(春節)前の各地の賑わいの紹介と韓国平昌五輪(南韓平昌冬奥会)、花蓮大地震を報道していた。また、地震の時の注意事項として、○柱子旁(大理石構造物のそば)、○楼梯間(階段)、○陽台上(高台)、×電梯裡(エレベーターの中)、を重点的に広報している。

事務局から
昨年3月、鳳陽会の全40支部を対象にアンケートを実施し、この度、その結果を踏まえて取りまとめた具体策に取り組みことになりました。

鳳陽会活動の基盤を強化するため、会員の皆さんの動静把握に努めるとともに、支部組織の強化・再編に取り組みます。

また、支部活動の支援や全国支部長会議の開催を始めとする鳳陽会活動の活性化に向けた様々な具体策に取り組みます。

支部と本部が一体となり実効性ある具体策への取組を進めるため、皆様のご理解、ご支援をお願いします。

本号の内容

第88回通常総会	1・2
学園だより	2・3
支部だより・ご寄贈	4
支部総会開催予定	5
通常総会資料	6・9
鮎川義介我が道を往く(第5回)	10・14
同期会だより	14
動静	14
東京ほうよう句会	15
台湾ひとり紀行(その3)	16



その未来に、できることがあります。

私たちYMFGは、3つの銀行ネットワークや、資産運用、ご家族の人生設計、企業のコンサルティング、地方創生など、グループ力でおお客様のご要望にお応えします。

